

2008年度 事業報告書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

特定非営利活動法人アトピー地球の子ネットワーク

1 事業の成果

1) 実施総括

安定した事業を継続するための財政基盤を確立するための新規事業や、寄付の仕組みの構築が、引き続き今年度の課題であり次年度以降の大きな課題である。

2) 各事業の成果、現状と課題

① 電話相談事業

電話相談をかけてくる人の資質がここ数年で大きく変わったと感じる。それは、「名前を名乗らない」ことに代表される。当法人の相談は、可能な限り家族歴や治療歴などを聞いて、相談の背景にある課題を聞き取ることを試みる。いわゆるQ&Aではない相談である。資質変化の要因の一つは「個人情報保護法案」の運用がはじまったからであると考えられる。本来であれば「行政や企業の活動を市民が監視する」という、近代国家では当然の事象を前提としたものなのだが、実際の社会生活の中には「個人のプライバシーに関わることだから」といって、本来的ではない使われ方をしている。名前を名乗らないだけでなく、結論としての「いい医者」や「いい治療法」を求める相談が散見される。電話相談や問い合わせの件数は、ここ数年約600件である。当法人が支援をして立ち上がった他電話相談窓口もあり、相談件数の増加や減少を気にしてはいない。それよりも、1本の相談を丁寧に聞き取り、課題解決のためのアドバイスを行い、相談が表現する「今、社会で起こっていること」を収集し、社会化していくことこそ、当法人の電話相談窓口の役割であると考えられる。

② 調査研究事業

新たにアレルギー表示制度の義務表示となる、えび・かにについて食物アレルギー患者の食生活実態についての聞き取り調査と、航空会社のアレルギー対応についての調査を行った。

③ 環境教育事業

・夏休み環境教育キャンプ

このキャンプの参加対象者は、アトピー・アレルギー性疾患の子どもとその家族、成人患者である。他に里子たちも参加している。キャンプでのボランティアは40人を超える。その多くが、初めて会う人達で、1回のボランティアミーティングでは、ボランティアの能力を引き出すことができないことが明らかになった。能力を引き出すことだけではなく、実際のプログラム開催時に、責任者の「指示に従うことができない(自身の判断で間違いを犯す等)」、「生活能力の欠如(調理用品名を知らない等)」等の、課題が顕著になってきた。経験豊富なスタッフや経年で参加するボランティアのおかげでプログラムは問題なく開催することができるが、20~30歳代の課題の多いボランティアに、キャンプの開催意図や実務について学ぶ機会をもっと提供する必要があると考えられる。

・秋山プロジェクト

秋山プロジェクト山梨県にある当法人の拠点周辺の里山や沢を活用した食農環境教育プログラムである。参加対象者は、夏休み環境教育キャンプと同様である。四季を通じて年4回、炭焼き、里山散策、沢遊び等を実施している。人の身体と自然の関わりについて、共生について考え体験する機会を設けた。また、運営能力に長けたボランティアスタッフ養成が課題である。

④ 情報提供事業

患者や市民の視点に立ったアトピー・アレルギー性疾患に関わる情報を、発行・編集・執筆・制作等の作業を通して提供した。また、アレルギー対応製品や環境保全型製品の普及に協力することで、患者とその家族、患者の暮らしをサポートする立場にある専門職、一般市民に、より分かりやすい情報の提供と課題の提示ができたと考えられる。新たな事業として構築を開始した、食物アレルギー危機管理情報(FAICM)を当法人の主要事業の一つとすべく、継続して企画進行中である。

⑤ 普及啓発事業

講師派遣を実施しアトピー・アレルギー性疾患に対する社会的理解の醸成を行った。また、夜の患者交流会は患者同士が自由に交流できる場を提供できたと考えられる。

3 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
電話相談	<ul style="list-style-type: none"> 電話相談窓口開設 アトピー・アレルギー性疾患や化学物質過敏症などに関わる相談を受け、暮らし方のアドバイスをした。 集中電話相談／アトピー・アレルギーホットライン：上記と同じ内容で、開設時間を延長した。 思春期以降のアトピー性皮膚炎患者の電話相談 上記アトピー・アレルギーホットラインの 	毎週木金曜日 92日/年 11:00-12:00 13:00-15:00 毎月第3木金曜日 10:00-17:00 22日/年 毎月第3木金曜日の翌日の土曜日 18:00-20:00 5日/年	法人事務所	7人	アトピー・アレルギー性疾患、化学物質過敏症患者及び一般市民 600人	2161
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> えび・かに表示の聞き取り調査 	8月～9月	法人事務所	4人	不特定多数	0
	<ul style="list-style-type: none"> 航空会社のアレルギー対応調査実施 	8月～9月	法人事務所	4人	不特定多数	0
環境教育	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み環境教育キャンプ 多くのボランティアと共に、自然と親しむための体感型環境教育プログラムを提供した。 	7月31日～8月2日	神奈川県立藤野芸術の家	50人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民 100人	2312
	<ul style="list-style-type: none"> 秋山プロジェクト 人と自然の共生、身体と環境の関係を、旧秋山村をフィールドに実際に体験し学習する機会を提供した。 	4月～3月	山梨県上野原市	6人	アトピー・アレルギー性疾患をもつ患者及びその家族、一般市民	261
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー対応製品(カタログ)の販促協力 アレルギー対応製品を選択せざるをえないアレルギー患者が安心して商品選定ができるよう協力した。また、アレルギーに関わるリサーチを実施した。らでいっしゅぼーや協力事業。 	4月～3月	法人事務所	3人	アトピー・アレルギー性疾患をもつ患者及びその家族 不特定多数	2463
	<ul style="list-style-type: none"> 食物アレルギーに関わる情報誌制作と運営協力 アレルギー表示の問題を中心にアレルギー患者の暮らしを支援した。NPO法人食物アレルギーパートナーシップ協力事業。 	4月～3月	法人事務所	3人	食品メーカー、行政、アトピー・アレルギー性疾患をもつ患者及びその家族 1000人	719
	<ul style="list-style-type: none"> 食農教育に関わる情報誌制作協力 食農環境教育、地域、文化、風土に関係した情報誌制作に協力した。小田原食と緑の交流推進協議会協力事業。 	6月	法人事務所	4人	農業や環境教育に関心のある者及び一般市民 2000人	93

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報提供	・オーガニックコットンに関わるホームページの制作協力 環境保全型コットンの普及を支援した。NPO法人日本オーガニックコットン流通機構協力事業。	4月～10月	法人事務所	3人	不特定多数	225
	・アレルギーの会全国連絡会の運営協力 患者の全国組織の運営に協力した。	4月～3月	法人事務所	3人	当該会員組織40団体	35
	・ホームページの運用 活動内容の紹介と疾患に対する理解を深めてもらうために実施した。	4月～3月	法人事務所	3人	不特定多数	64
	・「『子どものカラダ教室』食物アレルギーの子のいる暮らし」を実施 5回の講座の開催と講座の記録冊子を発行した。誤食事例を収集して、食物アレルギー危機管理情報(FAICM)に記事としてアップした。日本財団助成事業。	4月～3月	早稲田奉仕園、環境パートナーシップオフィスエポ会議室 法人事務所	9人	アトピー・アレルギー性疾患患者及びその家族と患者を支援する一般市民、2000人	720
	・アレルギー・トラブル対応マニュアル作成 電話窓口での患者支援ツールを作成した。大地を守る会協力事業。	4月～3月	法人事務所	5人	アトピー・アレルギー性疾患をもつ患者及びその家族 不特定多数	223
	・食物アレルギー危機管理情報ネットワークの構築 アレルギー混入事故食品に関する情報が、食物アレルギー患者に直接届く、Webサイトを構築、運用した。マイクロソフト助成事業。	4月～3月		5人	アトピー・アレルギー性疾患患者及びその家族と患者を支援する一般市民、不特定多数	377
	・情報センター 各種情報誌、学会誌、書籍等を閲覧に供した。	4月～3月	法人事務所	2人	30人	0
	・喘息診療ガイドラインの作成 喘息患者と医師が協同して議論を積み重ねて原稿を執筆した。日本小児アレルギー学会(厚労省科学研究事業)協力事業。	4月～3月	厚生労働省施設、国立南福岡病院、法人事務所	3人	アトピー・アレルギー性疾患患者及びその家族と患者を支援する一般市民	51
	・原稿執筆	4月～3月	消費者リポート他	2人	不特定多数	0

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報提供	・FAAA国際会議への参加 食物アレルギー団体の国際会議 (FAAA=Food Allergy & Anaphylaxis Alliance) に参加し、欧米アジアオセアニアの食物アレルギー事情の情報交換を行った。また、報告書を作成した。	9月	アメリカワシントンD.C.	2人	不特定多数	0
普及啓発	・講師派遣 各種団体、学校、保健所、一般企業、生協等に、アトピー・アレルギー性疾患に関する情報を提供した。	22回	依頼者が準備する会場	2人	一般市民 800人	556
	・夜の患者交流会 患者とその家族の交流や当事者同士が自由に話せる場所を提供した。	4回	法人事務所	5人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族 50人	73